

シリーズ 戦後70年

移住先のペルーからアメリカに強制収容

移住先のペルーでAさんは生まれて少年時代を過ごし、戦争が激しくなりアメリカへ強制収容された体験をお聞きすることができました。Aさんのお父さんは、ペルーへ移住し商売をしていました。戦時中にAさんは生まれ、少年時代をペルーで過ごされました。ペルーには外国の人が大勢おり、Aさんの自宅の2階にもフランス人が住んでいて、言葉は通じなかったのですが協力して生活していたそうです。戦争が激化すると、日本人の家は攻撃されると恐れられていました。ペルーのアメリカ大使館から国務省宛に「ペルーに住む日系人が危険である。」と連絡があり、アメリカ海軍の艦艇で連行されアメリカのテキサス州クリスタルシティへと強制収容されました。収容所では、日本人差別や強制労働など悲惨な経験はありませんでした。逃亡防止のために常に監視され収容先から外へ出られないという異常な状況下であったそうです。

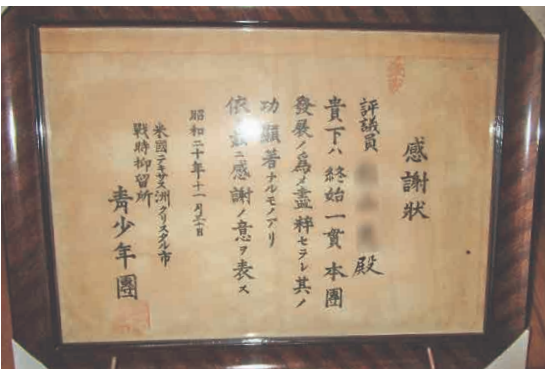
終戦後もなく、日本へ帰国しましたが、「終戦後のため食料が無いから船から下りるな」と母から言われたそうです。知り合いや家族に会いたい気持ちもあり帰国されました。帰国してからは、農家の知り合いを頼りなんとか生活することができました。

戦争の激化に伴い、幼少の頃から居場所を転々とする生活を体験されました。環境の変化に適応していく苦労や戦争に対する恐怖などのお話を伺いました。

老健あかね リハビリ科
理学療法士 樋口 愛子



Aさんのお話をお聞きする筆者(右)



Aさんのお父さんへテキサス州クリスタルシティの戦時抑留所(強制収容先)からの感謝状

ボランティア紹介

「病棟のコーヒーボランティア」



左から半沢美恵子さん、坂本雅美さん、片山陽子さん

「ありがとう、おいしかったを励みに」

毎月1回、第2火曜日の「コーヒーボランティア」のお手伝いを依頼された時、「私にできるのかな?」と思いましたが、早いもので2年が過ぎました。「ありがとう、おいしかった。」と言ってニコニコ笑ってくださる方々の顔を見

ると、私もうれしくなり元気が出ます。「また来月も来ますのでお元気でね。」という言葉を残して、今日もお会いする事ができて良かったと思いつつ、帰路につく私です。(片山 陽子)

「こちらまで楽しくなるボランティア」

私は、「コーヒーボランティア」の他にも菓子ボランティアもしています。また新しく「おはなしボランティア」を始め、その中で歌を歌ったり、お手玉をしたりして楽しんで

べる楽しさや喜びも感じて頂ける様日々努力しています。食事を選ぶのが楽しい、手が入っている、美味しかった!など感想を寄せて頂いた時は嬉しくなり、それが一番のやりがいです。また、自分の調理の腕も上がっている実感出来た時は、次は何をしようかなというような活力にもつながります。職場は、栄養士2名調理師7名、調理補助6名、20代から60代まで在籍しており、毎日仕事の話はもちろん、休日イベントや旅行にいった話や家族の話など休憩時も和気あいあいとアットホームです。

おられる患者さん方を見てみると私まで楽しくなります。これからも続けていきたいと思えます。(坂本 雅美)

「ボランティアとの出会い」

私は定年後、自営業をしていましたが、毎年コープリハビリテーション病院・老健あかねの「夏まつり」に参加していた時に友人に出会い、その方が病院でボランティアをしていることを知りました。私も元気でいる今の内に好きなボランティアをしたいと思つて、その後店もやめてすぐ、病院のボランティアをさせていただくこととなりました。

「ユマニチュード」とはフランス発祥の認知症ケアの方法です。特別な技術や高額な治療も必要ないのに効果が得られる認知症ケア方法です。認知症の人をケアするとき、からだに触れると大声を上げ、手足を振り回し抵抗されることがあります。認知症の人の、一見攻撃的に見える行為は、実は本人が自分を守ろうとして戦っている「防御」である可能性があります。その時、ケアする側は自分の職務(責任)を全うするために、どんなに拒絶されてもケアをやり遂げようと手や足をがっちりつかんでケアに集中します。認知症の人のために行っているケアなのに、これでは「襲われている」と感じるケアになってしまっています。ケアを受ける認知症の人とケアする側の双方が「よかった」と感じられるような関係をつくりたいものです。(半沢美恵子)

調理師募集



佐藤 望美
当院で、調理師を募集

食数は130〜150食です。普通食〜ミキサー食まで利用者様の食事レベルに合わせて食べやすさと見た目、美味しさにこだわって提供しています。

選任メニューや月1回の手作りおやつ、四季折々の行事食など独自の催しを通して食

老健あかね 栄養科
調理師 佐藤 望美



お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね

TEL 086-444-3212 (代表)
受付時間 8:30〜17:00
(土日祝・年末年始を除く)
〒712-8024
倉敷市水島北春日町4番3号
ホームページ
http://coopreha.jp/
メールアドレス
info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹舘 勝人

新入職員紹介



老健あかね
通所リハビリ 介護士
野山 美和

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。

特集 看護 ⑬
ユマニチュードについて①
認知症看護認定看護師
田上 理枝
コープリハビリテーション病院 病棟